

B—60 乳児用衛生用品についての研究  
綿布の衛生加工と柔軟加工の併用による  
制菌効果

福岡女大家政 平松 園江  
○上村 元子

1. 前に布の衛生加工につき種々の薬剤、加工布についてその制菌効果を調べ報告したが、今回は衛生加工と柔軟加工と併せ用いる場合の加工の順序や方法の制菌効果への影響を2、3の衛生加工剤と柔軟剤について調べた。又加工布の洗剤や洗濯機械的操作による耐洗たく効果を検討した。

2. 加工法を一浴、二浴とし二浴の場合は衛生加工を先にする場合と後にする場合につき検討した。供試菌は *Br. ammoniagenes.*, *Proteus. vulgaris*, *Escherichia. coli* とし、Halo test 及び A. A. T. C. C. 法の尿素ブイヨン培地に準じたものにより行なった。耐洗濯性については供試洗剤アニオン系 (A. B. S), 非イオン系及びおむつ専用洗剤等とし、操作は浸漬、手もみ、Lunder-Ometer, 家庭洗濯機の4操作について比較した。

3. 二浴加工の場合あとに衛生加工を行なった時の効果が大きく、順序により効果の差がある。一浴加工した場合制菌効果は二浴のあとに衛生加工をしたものと同じ効力がみられる。しかし2種加工剤の一浴については両薬剤の混浴の前に液の制菌効果をチェックする必要がある。耐洗濯については衛生加工濃度がある程度濃くないと耐洗濯性は少い。一般洗剤の差は大きくない。操作は洗濯機 > Lunder-Ometer > 手もみ > 浸漬の順に阻止力減退が大きい。洗たく機洗いの除去率は大きく、それで浸

育先施。此上為先施。考應研究。為進取。為志。